

令和8年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立大詫間小学校

4月から5月にかけて、文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童・生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育の改善を図るとともに、児童・生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

調査期日 令和8年4月23日（木）

（注）質問調査については、オンライン方式（CBT方式）のため、調査日を分散して実施

調査の対象学年 小学校第6学年

調査の内容

（1）教科に関する調査

国語、算数

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。

② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。

調査問題では、上記①と②を一体的に問うている。

（2）質問調査（1人1台端末を用いたCBT方式）

児童生徒に対する質問	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
学校に対する質問	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

教科に関する調査結果及び考察について

・全国学力・学習状況調査は、小学6年生及び中学3年生を対象に、国語、算数・数学、英語について実施されています。

・また、調査問題は、各教科の一部の内容について出題されているものであり、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり、「学校教育活動の一側面」です。
したがって、調査結果を見る際には、この点をご理解いただいた上で、ご覧ください。

質問
調査

佐賀市学校教育ビジョンに関わる設問より（キーワード：自律・尊重・創造・主体性・当事者意識）

《質問領域：主体的・対話的で深い学び》

（注）数値は「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等、肯定的な回答の割合（％）

質問 番号	質問事項	本校 (%)	全国 (%)
39	前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	100.0	77.6
42	学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	100.0	85.7
46	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	100.0	91.4

本校の調査結果 ※◎（強み）、●（課題）

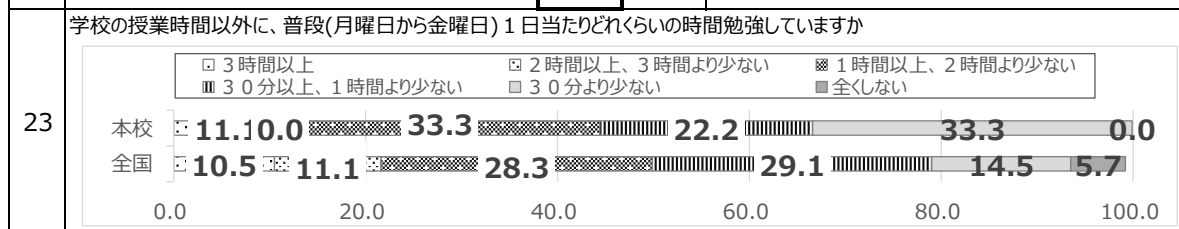
◎授業では、自ら課題に向き合い、課題の解決に向けて学び方を工夫し、意欲的に取り組む姿が見られます。

◎自分の考えを伝えたり、友達や周りの人の考えを聞いたりする活動で、学びを深めようとする意識の高まりが見られます。

●学習の振り返りや学び直しを充実させることで、自分に合った学び方を選択し・調整する力を高め、家庭学習にもつなげていく必要があります。

《質問領域：主体的な学習の調整、学習習慣》

22	分からないことやわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	88.8	79.4
43	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	66.6	78.4



《質問領域：自己肯定感、幸福感 等》

8	自分には、よいところがあると思う	88.9	85.6
10	将来の夢や目標を持っている	77.8	81.8
15	学校に行くのは楽しいと思う	66.6	85.7
21	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	100.0	92.5

本校の調査結果 ※◎（強み）、●課題

◎多くの児童が自分のよさを知り、楽しみや喜びを感じながら生活をしている様子が見えかえします。

◎人や地域の役に立つことへの関心をもち、社会の一員としての意識が育っています。

●将来、社会の一員として、また、人の役に立つために、今の学校での生活や学習が関係していることを実感できるような支援が必要です。

●自分のよさや関心を将来、どのように生かすのかを考える機会や体験が必要です。

《質問領域：向社会性》

14	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	100.0	95.8
33	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	77.7	80.1

調査結果を受けて

【学校では】

- 自分の「問い」をもち、自ら進んで「問い」の解決に向かって学ぶ、児童の主体的な学びを進める授業づくりをしています。
- 自分の学びを振り返る機会を充実させ、自分に合った学び方を考え、選択し、調整する力を育みます。
- 子ども達がそれぞれの考えやよさを生かして、自分たちで計画・実行する機会や出番を作り、社会性を育み、自己や他者の理解を図ります。

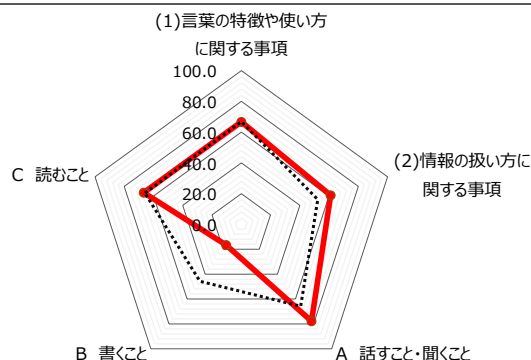
【ご家庭では】

- 子どもの話に耳を傾け、「どうしたの？」「あなたはほしい？」「何かできることある？」と考えを引き出すなど、子どもとの対話を大切にしてください。
- 「家庭学習の手引き」をご覧になり、学習時間の目安や学習の進め方を参考に、子どもが自分で決めて学習できるように励ましてください。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容		平均正答率 (%)	
		本校	全国
知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	66.7	66.8
	(2)情報の扱い方に 関する事項	61.1	52.3
思考力、 判断力、 表現力 等	A 話すこと・聞くこと	77.8	65.8
	B 書くこと	16.7	45.7
	C 読むこと	66.7	65.9

—●— 平均正答率 (%) 本校 平均正答率 (%) 全国



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	63.0	61.9
短答式	55.6	62.6
記述式	55.6	54.9

結果 ※○ (強み)、●課題

○「思考力、判断力、表現力等」の (A 話すこと・聞くこと) の正答率が高く、相手に伝わるように、理由や事例を挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができています。

●「思考力、判断力、表現力等」の (B 書くこと) の正答率が低く、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。また、引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題があります。

《正答率の高い問題》【強み】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
1 一	相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができるかどうかをみる	100.0	73.9
3 一	話や文章の種類とその特徴について理解することができるかどうかをみる	100.0	76.7

《正答率の低い問題》【課題】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
2 一	筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができるかどうかをみる	11.1	57.9
2 三イ	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	11.1	45.2

調査結果を受けて

【学校では】

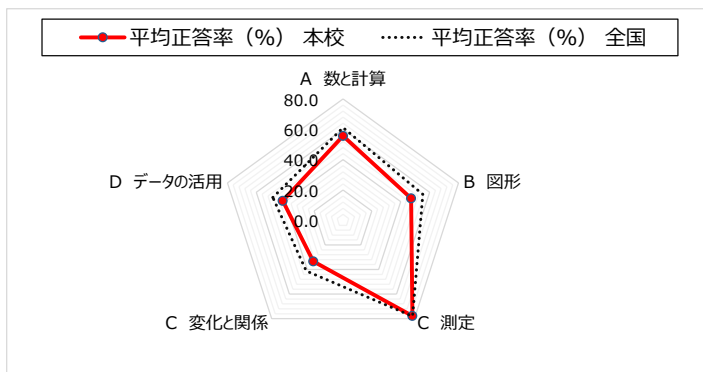
- 自分の考えを文章に書いて表現する活動の充実を図ります。振り返りを観点意識して書くことや自分の考えを理由や事例を挙げ書くことなどを授業で取り入れていきます。
- 自分の考えや学習のまとめを文章で書く際に、キーワードを使ったり、文章の引用をしったりして書き表すことを指導していきます。
- 朝の読書や日記、条件作文などに取り組み、語彙力を増やしたり、書く活動を取り入れたりしていきます。

【ご家庭では】

- 音読や読書など、読む活動を大切にしてください。さらに、読書の記録や感想を短い文章で表したり、本の内容について話し合ったりする機会をつくってください。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容	平均正答率 (%)	
	本校	全国
A 数と計算	55.6	61.1
B 図形	47.2	55.3
C 測定	77.8	78.1
C 変化と関係	33.3	41.1
D データの活用	41.7	48.6



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	46.7	56.0
短答式	56.9	59.7
記述式	44.4	48.5

結果 ※◎ (強み)、●課題

◎ 小数と分数のしくみ等の数のしくみや立方体の体積を求める式など、算数の基礎・基本の内容が身に付き、記述式の回答では、式や言葉を使って説明をすることができています。

● 基準量、比較量、割合の関係を正しく捉えてどちらが混んでいるのかを判断したり、二次元の表を正しく読み取ることに課題がみられます。

● 問題文で問われていることを的確に把握することが課題です。

《正答率の高い問題》【強み】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
3 (1)	小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくることができるかどうかをみる	100.0	94.5
1 (1)	立方体の体積の計算による求め方について理解しているかどうかをみる	77.8	72.0

《正答率の低い問題》【課題】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
2 (3)	単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらの方が混んでいるのかについて判断できるかどうかをみる	11.1	36.1
4 (3)	二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる	11.1	17.9

調査結果を受けて

【学校では】

- 授業では、日常生活と結び付けた課題を設定することで、答えを導き出すための考え方や根拠を思考しやすくし、出した答えがより納得できるようにするなどの工夫をします。
- 図や絵、表やグラフ、式の数字が課題の場面の何を表しているのかを理解できるように、具体場面と行き来して捉えるようにします。

【ご家庭では】

- 学習したことを生活の中で使うことで、算数を使うことの便利さやよさに気がきます。生活場面で一緒に算数を使って考える機会を作ってください。
- わからない問題や間違った問題に挑戦し、学び直しをしている姿を称賛し、励ましてください。